

## 工科短期大学校及び技術専門校の課題等について

工科短期大学校	.....	1
南信工科短期大学校	.....	2
長野技術専門校	.....	3
松本技術専門校	.....	4
岡谷技術専門校	.....	5
飯田技術専門校	.....	6
伊那技術専門校	.....	7
佐久技術専門校	.....	8
上松技術専門校	.....	9

# 工科短期大学校及び技術専門校の課題等について

工科短期大学校

課 題	現 状	検討の方向性																		
工科短大の知名度向上	<p>ニーズ調査によると、当校卒業生を採用した企業の70%が卒業生に高い評価を与えているが、当校の知名度は、高校生で約14%と低い。</p> <p>人材育成ニーズ調査(高校生調査)から抜粋</p> <table border="1" data-bbox="507 511 1556 618"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>合計</th> <th>良く知っている</th> <th>名前は知っている</th> <th>知らない</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高校生</td> <td>2,052人</td> <td>47人</td> <td>230人</td> <td>1,758人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>100.0%</td> <td>2.3%</td> <td>11.2%</td> <td>85.7%</td> <td>0.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>当校校長による高校長へのトップセールスを、年2回集中して行う他、今年度から、主要校に対して1校1担当制(学科長が担当)を敷いて、進路指導の教員と連絡を密にするとともに、さらに担任、PTAを通じた高校生への周知に力を入れている。</p>	区分	合計	良く知っている	名前は知っている	知らない	無回答	高校生	2,052人	47人	230人	1,758人	17人		100.0%	2.3%	11.2%	85.7%	0.8%	<p>1校1担当制等による高校との連絡体制を強化するとともに、引き続き高校生への周知に必要な様々な手段を検討していく必要がある。</p>
区分	合計	良く知っている	名前は知っている	知らない	無回答															
高校生	2,052人	47人	230人	1,758人	17人															
	100.0%	2.3%	11.2%	85.7%	0.8%															
教育と研究の質の向上	<p>当校の競争力の強化や差別化を進めていくためには、大学としての研究の質の向上とこれに伴う教育の質の向上が必要となっている。</p> <p>今年度から、工科短期大学校教育研究振興会において研究の支援体制強化が行われた。</p>	<p>現在の企業の技術レベルに対応した技術者を育成していくためには、教員の研究の質の向上とともに、研究成果の教育へのフィードバックを卒業研究等を通じて積極的に進めていく必要がある。</p>																		
訓練機器及び施設・設備の更新	<p>20年前の開校当初に整備した多くの訓練機器がまだまだ使用されており、企業が使用している機器との機能のギャップが大きくなっている。</p> <p>即戦力の技術者の養成が困難となりつつあり、老朽化が進む施設・設備の修繕・改修が必要となっている。</p>	<p>計画的な更新を進めるとともに、国庫補助の拡充を求めていく。</p>																		
より高度な訓練ニーズへの対応	<p>複数の高校から、4年制大学の3年次への編入制度があれば、進路指導として当校を推薦できる旨の意見がある。</p> <p>また、年によって1、2名程度応用課程等に進学する者がいる。</p>	<p>南信校の開校を控え、当校の卒業生と合わせ、進学を希望する者の増加が予想されることから、より高度な技術獲得の機会を提供する必要がある。</p> <p>引き続き、編入制度の実現をめざしていく。</p>																		

# 工科短期大学校及び技術専門校の課題等について

南信工科短期大学校

課 題	現 状	検討の方向性																																	
知名度の向上	<p>人材育成ニーズ調査(事業所及び高校生調査)から抜粋</p> <table border="1" data-bbox="507 537 1478 748"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>合計</th> <th>良く知っている</th> <th>名前は知っている</th> <th>知らない</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">企業</td> <td>回答数</td> <td>1,572社</td> <td>60社</td> <td>279社</td> <td>1,166社</td> <td>67社</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>100.0%</td> <td>3.8%</td> <td>17.7%</td> <td>74.2%</td> <td>4.3%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高校生</td> <td>回答数</td> <td>2,052人</td> <td>28人</td> <td>123人</td> <td>1,869人</td> <td>32人</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>100.0%</td> <td>1.4%</td> <td>6.0%</td> <td>91.1%</td> <td>1.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>南信工科短期大学校を知らない県民が多い。PRが不足している。</p>	区分		合計	良く知っている	名前は知っている	知らない	無回答	企業	回答数	1,572社	60社	279社	1,166社	67社	割合	100.0%	3.8%	17.7%	74.2%	4.3%	高校生	回答数	2,052人	28人	123人	1,869人	32人	割合	100.0%	1.4%	6.0%	91.1%	1.6%	<p>高校生以下の学生、生徒等、保護者及び県民へ向けて一層のPRを行う。</p>
区分		合計	良く知っている	名前は知っている	知らない	無回答																													
企業	回答数	1,572社	60社	279社	1,166社	67社																													
	割合	100.0%	3.8%	17.7%	74.2%	4.3%																													
高校生	回答数	2,052人	28人	123人	1,869人	32人																													
	割合	100.0%	1.4%	6.0%	91.1%	1.6%																													
教育と研究の質の向上	<p>研究の質と教育の質の向上が必要。</p>	<p>振興会会員企業と連携して訓練実施につなげる。</p>																																	
より高度な訓練ニーズへの対応	<p>開校前のため、まだ具体的な声はないが、今後要望が出る可能性がある。</p>	<p>4年制大学の3年次への編入制度の実現に取り組む。</p>																																	
学生への就学支援	<p>経済的に厳しい家庭や、自宅からの通学が困難な学生の入学が予想される。</p>	<p>地元自治体と連携し、学生支援に取り組む。</p>																																	

# 工科短期大学校及び技術専門校の課題等について

長野技術専門校

課 題		現 状	検討の方向性																																										
入校状況や就職状況の悪い訓練科の存在	画像処理印刷科	<p>入校状況及び就職状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定員</td> <td>20人</td> <td>20人</td> <td>15人</td> <td>15人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>入校者数</td> <td>16人</td> <td>14人</td> <td>12人</td> <td>7人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>80.0%</td> <td>70.0%</td> <td>80.0%</td> <td>46.7%</td> <td>40.0%</td> </tr> <tr> <td>修了者数</td> <td>11人</td> <td>13人</td> <td>9人</td> <td>6人</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>就職者数</td> <td>4人</td> <td>4人</td> <td>6人</td> <td>4人</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>就職率</td> <td>36.4%</td> <td>30.8%</td> <td>66.7%</td> <td>66.7%</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>定員充足率が良くなかったことから、H25に募集定員を減らした。 課題を抱えた訓練生が増加しており、修了時点で企業の求めるレベルに達せず、就職できないケースが生じている。</p>	区分	H23	H24	H25	H26	H27	定員	20人	20人	15人	15人	15人	入校者数	16人	14人	12人	7人	6人	充足率	80.0%	70.0%	80.0%	46.7%	40.0%	修了者数	11人	13人	9人	6人	-	就職者数	4人	4人	6人	4人	-	就職率	36.4%	30.8%	66.7%	66.7%	-	<p>関連する業界のニーズ等を踏まえた上で、訓練のあり方などを根本的に検討する必要がある。</p>
	区分	H23	H24	H25	H26	H27																																							
定員	20人	20人	15人	15人	15人																																								
入校者数	16人	14人	12人	7人	6人																																								
充足率	80.0%	70.0%	80.0%	46.7%	40.0%																																								
修了者数	11人	13人	9人	6人	-																																								
就職者数	4人	4人	6人	4人	-																																								
就職率	36.4%	30.8%	66.7%	66.7%	-																																								
木造建築科	<p>入校状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定員</td> <td>20人</td> <td>20人</td> <td>20人</td> <td>20人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>入校者数</td> <td>6人</td> <td>11人</td> <td>16人</td> <td>8人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>30.0%</td> <td>55.0%</td> <td>80.0%</td> <td>40.0%</td> <td>45.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>建設分野は、近年人手不足が指摘されており、企業からの求人ニーズ、訓練ニーズは高い。</p>	区分	H23	H24	H25	H26	H27	定員	20人	20人	20人	20人	20人	入校者数	6人	11人	16人	8人	9人	充足率	30.0%	55.0%	80.0%	40.0%	45.0%	<p>近年、就職率100%であり、引き続き求人も見込まれる。</p> <p>入校率の向上については、引き続き高校生や求職者にPRし、認知度の向上を図るとともに、入職希望者増加に向けた業界団体、市町村やハローワークなどの取組に協力し、訓練ニーズに適合するようなカリキュラムなどの検討を行う。</p>																			
区分	H23	H24	H25	H26	H27																																								
定員	20人	20人	20人	20人	20人																																								
入校者数	6人	11人	16人	8人	9人																																								
充足率	30.0%	55.0%	80.0%	40.0%	45.0%																																								
訓練参加に困難を伴う訓練生の増加	<p>訓練意欲や基礎能力が著しく低い等、授業についていけない訓練生は中途退校、未就職となってしまう。</p>	<p>サポート体制の確立 ・支援機関との連携(サポステ、ジョブカフェなど) ・支援員の配置を検討</p>																																											
施設等の老朽化	施設	<p>S46年の建設で49年が経過し、全体的に老朽化している。 訓練実習室にあっては、地盤沈下による床の傾斜、雨漏り等が発生している。</p>	<p>改修又は建替えを検討</p>																																										
	設備	<p>技術革新に係り、NC工作機械等の設備更新が進んでいないため、県下企業の要望する技術に対応できない。</p>	<p>企業ニーズに対応できる設備の充実</p>																																										
指導体制	<p>指導員の欠員が生じている</p> <p>専門的な技能が多岐にわたるため、外部講師が不可欠</p>	<p>より高度な訓練を実施するための、適正な指導員の配置と指導員相互の技能継承(研修の充実)</p> <p>分野ごとの外部講師の確保</p>																																											

# 工科短期大学校及び技術専門校の課題等について

松本技術専門校

課 題	現 状	検討の方向性																								
入校生の確保	<p>施設内訓練において、募集活動を行うが定員を満たす訓練生を確保できず、入校生の確保に苦慮している。</p> <p>入校者数の推移</p> <table border="1" data-bbox="532 456 1347 667"> <thead> <tr> <th>科名</th> <th>定員</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度見込 (1/25現在)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電気建築設備科</td> <td>30</td> <td>22</td> <td>21</td> <td>13</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>自動車整備科</td> <td>25</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>建築科</td> <td>20</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>17</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table> <p>特に平成27年度以降の電気建築設備科の入校者数が5割を切る現状となっている。</p>	科名	定員	25年度	26年度	27年度	28年度見込 (1/25現在)	電気建築設備科	30	22	21	13	10	自動車整備科	25	21	22	22	25	建築科	20	17	19	17	19	<p>応募者に魅力ある訓練内容への見直し</p> <p>募集活動の強化</p> <p>訓練内容が想定できる募集訓練科名の名称変更</p>
科名	定員	25年度	26年度	27年度	28年度見込 (1/25現在)																					
電気建築設備科	30	22	21	13	10																					
自動車整備科	25	21	22	22	25																					
建築科	20	17	19	17	19																					
指導員体制の整備	<p>欠員があること、また、高齢化が進んでおり、訓練手法の継承など、効率的な指導体制の構築に支障がある。</p> <p>実技指導には一定の作業経験が必要なため、新規採用職員又は他科からの転科職員では、即座の訓練指導が困難である。</p> <p>また、資格取得課程の指導には、実務経験または指導員免許が必要なため、外部講師に頼らざるを得ない。</p> <p>県下1科の体制の訓練科については、人事異動による指導員のキャリアアップが有効に行われず、指導員体制の構築が困難。</p> <p>また、高齢化している外部講師の確保にも苦慮している。</p>	<p>社会人枠指導員の採用とバランスの良い年齢構成による指導員配置</p> <p>民間企業への6か月の派遣研修など、新規採用職員、転科職員への研修の強化や指導員試験の実施</p> <p>訓練指導のレベル維持ができるための研修等の強化や、訓練指導員への技能検定受検勧奨</p>																								
訓練用機器の整備	<p>新技術に対応した訓練用機器が十分に整備されておらず、時代に対応した訓練ができない。</p> <p>また、老朽化した訓練用機器も多く、効果的な訓練の実施に支障がある。</p>	<p>整備のため予算要求を行っていくが、団体や企業との連携を図り、民間の資産を活用した訓練方法の検討も図っていく。</p>																								

# 工科短期大学校及び技術専門校の課題等について

岡谷技術専門校

課 題	現 状	検討の方向性																																																																																					
地域ニーズに即した訓練体制の整備	<p>普通課程入校状況(ものづくり技術科)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定員</td> <td>10人</td> <td>10人</td> <td>10人</td> <td>10人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>入校者数</td> <td>4人</td> <td>4人</td> <td>4人</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>うち新卒</td> <td>1人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>40.0%</td> <td>40.0%</td> <td>40.0%</td> <td>60.0%</td> <td>60.0%</td> </tr> <tr> <td>修了者数</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>就職者数</td> <td>0人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>就職率</td> <td>0.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>入校者数が定員に満たない状況が続いている。 また、普通課程の入校者のほとんどが離転職者であり、就職が決まった時点で中途退校する者が多い。</p> <p>スキルアップ講座実施件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">コース数</td> <td>全県</td> <td>226件</td> <td>230件</td> <td>177件</td> <td>197件</td> </tr> <tr> <td>岡谷</td> <td>33件</td> <td>33件</td> <td>34件</td> <td>44件</td> </tr> <tr> <td>占有率</td> <td>14.6%</td> <td>14.3%</td> <td>19.2%</td> <td>22.3%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">受講者数</td> <td>全県</td> <td>2,336人</td> <td>2,283人</td> <td>1,830人</td> <td>2,030人</td> </tr> <tr> <td>岡谷</td> <td>268人</td> <td>248人</td> <td>242人</td> <td>295人</td> </tr> <tr> <td>占有率</td> <td>11.5%</td> <td>10.9%</td> <td>13.2%</td> <td>14.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>諏訪地域は、中小規模の製造業の集積が多いため、企業内での技術・技能の継承や人材育成のための在職者訓練のニーズが高く、スキルアップ講座のリピート利用が多い。 更に、新規採用者に対する基礎的訓練や、1ヶ月程度の長期にわたり体系的かつ段階的に技術・技能を習得できる訓練を求める声があるが、現状では応じられていない。</p>	区分	H23	H24	H25	H26	H27	定員	10人	10人	10人	10人	10人	入校者数	4人	4人	4人	6人	6人	うち新卒	1人	0人	0人	1人	1人	充足率	40.0%	40.0%	40.0%	60.0%	60.0%	修了者数	1人	1人	1人	1人	-	就職者数	0人	1人	1人	1人	-	就職率	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	区分	H23	H24	H25	H26	コース数	全県	226件	230件	177件	197件	岡谷	33件	33件	34件	44件	占有率	14.6%	14.3%	19.2%	22.3%	受講者数	全県	2,336人	2,283人	1,830人	2,030人	岡谷	268人	248人	242人	295人	占有率	11.5%	10.9%	13.2%	14.5%	<p>地域ニーズを踏まえて、普通課程と短期課程のあり方などについて、根本的な見直しが必要。</p> <p>合わせて、在職者訓練の校内訓練課程への受け入れも視野に、企業の希望に応じられる訓練科目を設定するなど、ニーズに柔軟に対応できる訓練体制を検討する必要がある。</p>
区分	H23	H24	H25	H26	H27																																																																																		
定員	10人	10人	10人	10人	10人																																																																																		
入校者数	4人	4人	4人	6人	6人																																																																																		
うち新卒	1人	0人	0人	1人	1人																																																																																		
充足率	40.0%	40.0%	40.0%	60.0%	60.0%																																																																																		
修了者数	1人	1人	1人	1人	-																																																																																		
就職者数	0人	1人	1人	1人	-																																																																																		
就職率	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-																																																																																		
区分	H23	H24	H25	H26																																																																																			
コース数	全県	226件	230件	177件	197件																																																																																		
	岡谷	33件	33件	34件	44件																																																																																		
	占有率	14.6%	14.3%	19.2%	22.3%																																																																																		
受講者数	全県	2,336人	2,283人	1,830人	2,030人																																																																																		
	岡谷	268人	248人	242人	295人																																																																																		
	占有率	11.5%	10.9%	13.2%	14.5%																																																																																		
訓練用設備の充実	<p>NC旋盤は、他技専で20年以上使用していたもの(平成5年製)を移設して使用しており、機種が古くニーズに十分対応できていない。 NC加工機はマシニングセンタ及びNC旋盤が各1台のみであるため、故障時の対応も含め、複数台の整備が望まれる。</p>	<p>特にニーズの高いNC旋盤の整備を優先し、地域企業の要望に応えられるよう、訓練設備の計画的整備を図っていく。</p>																																																																																					
指導員の資質向上	<p>現在2名の正規職員と非常勤講師で普通課程、短期課程および在職者訓練の指導にあたっており、毎日の訓練対応に追われ、指導員が新たな技術・技能の習得のため、研修に参加する時間を確保することが困難な状況にある。また、後任の確保や技術・技能の継承が困難である。</p>	<p>県内の技術専門校全体で、指導員が資質向上のため長期的な研修等にも参加できるように人員体制を確保するとともに、指導員のキャリアアップおよび後任への技術・技能の継承を計画的に図れるような人材育成システムを構築する。</p>																																																																																					

# 工科短期大学校及び技術専門校の課題等について

飯田技術専門校

課 題	現 状	検討の方向性																								
木造建築科の訓練生確保	<p>入校状況</p> <table border="1" data-bbox="454 505 1470 635"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定員</td> <td>20人</td> <td>20人</td> <td>20人</td> <td>20人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>入校者数</td> <td>14人</td> <td>14人</td> <td>14人</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>70.0%</td> <td>70.0%</td> <td>70.0%</td> <td>40.0%</td> <td>40.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成26・27年度と連続して定員の半数を割る状況。                      高校生の技術専門校に対する認知度の低さもあり、新卒者は入校者の半分にも達しておらず、訓練生は高齢になりがち。                      後継者確保を含め、在来工法に対応できる建築大工の技能者の需要が高まっており、地元の建設業界からは訓練継続を求める声が寄せられ、地元企業を中心に高い就職率を誇っている。</p>	区分	H23	H24	H25	H26	H27	定員	20人	20人	20人	20人	20人	入校者数	14人	14人	14人	8人	8人	充足率	70.0%	70.0%	70.0%	40.0%	40.0%	<p>現在の就職率は高く、今後も企業からの人材ニーズが見込まれる。</p> <p>入校率向上の取組については、引き続き高校生や求職者に向けてPRするとともに、高校生や若い世代の求職者の入職希望者増加に向けた業界団体、市町村やハローワークなどと連携し、訓練ニーズに適合するようなカリキュラムなどの検討を行う。</p>
区分	H23	H24	H25	H26	H27																					
定員	20人	20人	20人	20人	20人																					
入校者数	14人	14人	14人	8人	8人																					
充足率	70.0%	70.0%	70.0%	40.0%	40.0%																					
施設の老朽化	<p>昭和54年建築のため、耐震性能に不安があるうえ、在職者訓練での要望が多い冷房施設もない。                      また、障がい者や女性訓練生のニーズに応える訓練環境の整備を図る必要がある。</p>	<p>計画的な施設改修を進める必要がある。</p>																								
訓練指導員の計画的な採用、育成	<p>現在、1名の欠員があり、木造建築科の指導員1名は、再任用職員であり、将来さらに欠員が見込まれる。</p>	<p>訓練指導員の質の向上を図り、後継者育成のため、指導員の計画的な採用を進める。また、木造建築科については、建設部技術職員との交流等の対応が必要である。</p>																								

## 工科短期大学校及び技術専門校の課題等について

伊那技術専門校

課 題	現 状	検討の方向性																				
技術専門校のPR不足	<p>人材育成ニーズ調査(高校生調査)から抜粋</p> <table border="1" data-bbox="507 526 1464 651"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>合計</th> <th>良く知っている</th> <th>名前は知っている</th> <th>知らない</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">高校生</td> <td>回答数</td> <td>2,052人</td> <td>51人</td> <td>220人</td> <td>1,752人</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>100.0%</td> <td>2.5%</td> <td>10.7%</td> <td>85.4%</td> <td>1.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>技術専門校を知らない高校生が多く、PRが不足している。</p>	区分		合計	良く知っている	名前は知っている	知らない	無回答	高校生	回答数	2,052人	51人	220人	1,752人	29人	割合	100.0%	2.5%	10.7%	85.4%	1.4%	<p>主に高校生以下の学生、生徒等、保護者及び県民へのPR方法を打ち出す。</p>
区分		合計	良く知っている	名前は知っている	知らない	無回答																
高校生	回答数	2,052人	51人	220人	1,752人	29人																
	割合	100.0%	2.5%	10.7%	85.4%	1.4%																
実習環境の整備	<p>訓練生へのアンケート結果及びスキルアップ事業の受講生から、夏場の空調等の環境整備を望む声が多く聞かれた。</p>	<p>南信工科短大の施設整備として対応していく。</p>																				
訓練指導員の後継者不足	<p>現在欠員のある訓練科があるうえ、今後指導員の退職が見込まれるため、後継者の不足が懸念される。</p>	<p>社会人経験者等計画的な採用を行う。 また、指導員の人材育成については、学科毎の研修体制の整備と指導員のインターンシップ等による技能向上を図る。</p>																				
民間外部講師の高齢化	<p>欠員等により民間外部講師を探しても65歳前後の講師が多い。</p>	<p>若手技術者任用に向けた人材発掘を行う。</p>																				

# 工科短期大学校及び技術専門校の課題等について

佐久技術専門校

課 題	現 状	検討の方向性																																										
<p>入校者数の確保</p>	<p>普通課程入校状況(生産システム科(3コース)⇒生産技術システム科)</p> <table border="1" data-bbox="450 440 1301 675"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定員</td> <td>30人</td> <td>30人</td> <td>20人</td> <td>20人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>入校者数</td> <td>11人</td> <td>14人</td> <td>20人</td> <td>17人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td>36.7%</td> <td>46.7%</td> <td>100.0%</td> <td>85.0%</td> <td>70.0%</td> </tr> <tr> <td>修了者数</td> <td>10人</td> <td>8人</td> <td>13人</td> <td>3人</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>就職者数</td> <td>4人</td> <td>4人</td> <td>11人</td> <td>3人</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>就職率</td> <td>40.0%</td> <td>50.0%</td> <td>84.6%</td> <td>100.0%</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>雇用情勢の改善に伴い、訓練受講希望者が減少しているが、募集・PR活動を十分に実施できていない。</p>	区分	H23	H24	H25	H26	H27	定員	30人	30人	20人	20人	20人	入校者数	11人	14人	20人	17人	14人	充足率	36.7%	46.7%	100.0%	85.0%	70.0%	修了者数	10人	8人	13人	3人	-	就職者数	4人	4人	11人	3人	-	就職率	40.0%	50.0%	84.6%	100.0%	-	<p>地域の訓練ニーズに基づき、平成25年に科目の整理統合を進めたところである。</p> <p>高校やハローワークへのPRを強化し浸透を図るとともに、企業ニーズに即しつつ、訓練希望者の増加につながるようなカリキュラム編成を検討する。</p>
区分	H23	H24	H25	H26	H27																																							
定員	30人	30人	20人	20人	20人																																							
入校者数	11人	14人	20人	17人	14人																																							
充足率	36.7%	46.7%	100.0%	85.0%	70.0%																																							
修了者数	10人	8人	13人	3人	-																																							
就職者数	4人	4人	11人	3人	-																																							
就職率	40.0%	50.0%	84.6%	100.0%	-																																							
<p>訓練指導員体制の整備</p>	<p>訓練指導員の高齢化が進んでおり、職業訓練技能の継承が課題</p> <p>外部の講師人材が不足しており、在職者訓練等の講師確保が困難</p>	<p>中・長期的視点に立った訓練指導員の計画的な採用・確保を行っていく。また、技術系の職員が、幅広い能力を身に着けられるように、技術系職員の全庁的な人事交流の促進を図る。</p> <p>外部人材の人材登録制度等を創設し、専門知識・技能・指導経験を有する人材を活用できる仕組みをつくる。</p>																																										
<p>訓練生の多様化に対する体制の整備</p>	<p>近年、発達障害や精神疾患等がある訓練生が増加しているため、訓練指導の手法や内容が多様化している。このため、技能到達水準の維持確保が困難</p> <p>訓練生の多様化に伴い、訓練生の就職支援に一層専門的な見地が必要になってきている。</p>	<p>メンタル面のサポート、就職困難者の就職支援等を担う人材配置等、支援体制の強化を図る。</p> <p>専門的な能力を持つ人材や組織との連携を強化していく。</p>																																										

# 工科短期大学校及び技術専門校の課題等について

上松技術専門校

課 題	現 状	検討の方向性																																										
訓練生の県内への就職	<p>県内木工業の規模が小さいため、県内へ就職する者は限られ、木曾地域に残り自営を希望する訓練生もいるが、自営のための住宅や工房の確保が難しい。</p> <p>木工科及び木材造形科の修了・就職状況</p> <table border="1" data-bbox="553 675 1558 911"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就職者数</td> <td>37人</td> <td>37人</td> <td>37人</td> <td>37人</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>  うち県内</td> <td>12人</td> <td>18人</td> <td>21人</td> <td>18人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>  うち県外</td> <td>25人</td> <td>19人</td> <td>16人</td> <td>19人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>入校者数</td> <td>45人</td> <td>45人</td> <td>40人</td> <td>42人</td> <td>42人</td> </tr> <tr> <td>  うち県外</td> <td>32人</td> <td>22人</td> <td>27人</td> <td>27人</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>県外出身者の県内就職</td> <td>4人</td> <td>2人</td> <td>10人</td> <td>8人</td> <td>4人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H22	H23	H24	H25	H26	就職者数	37人	37人	37人	37人	33人	うち県内	12人	18人	21人	18人	15人	うち県外	25人	19人	16人	19人	18人	入校者数	45人	45人	40人	42人	42人	うち県外	32人	22人	27人	27人	31人	県外出身者の県内就職	4人	2人	10人	8人	4人	<p>地元自治体と連携し、修了生の就業、定住支援を行う。</p>
区分	H22	H23	H24	H25	H26																																							
就職者数	37人	37人	37人	37人	33人																																							
うち県内	12人	18人	21人	18人	15人																																							
うち県外	25人	19人	16人	19人	18人																																							
入校者数	45人	45人	40人	42人	42人																																							
うち県外	32人	22人	27人	27人	31人																																							
県外出身者の県内就職	4人	2人	10人	8人	4人																																							
質の高い指導員の育成と計画的な採用	<p>当校は、全国から多くの入校希望者があり、毎年定員を上回る訓練生が入校している。</p> <p>木工の訓練は継続的かつ特に質の高い技術指導が求められるが、平成27年度から指導員が1名欠員状態(現在3名)であり、また年齢も全員が50代となっている。</p> <p>平成22年度の訓練科見直しにより、木工科は県内では当校のみとなっており、木工の指導員は当校にしかいないため、人事異動による確保が出来ない。</p> <p>国の職業訓練大学校の木工に関する学科が廃止され、指導員人材を輩出してきた公的機関がないため、木工指導員の確保が難しくなっている。</p>	<p>当校OBなどの木工業界で働いていた者を社会人枠などで採用し、若手指導員を計画的に確保・育成していく必要がある。</p>																																										